

## 診療用高エネルギー放射線発生装置について

## 1 診療用高エネルギー放射線発生装置に関する事項

製作者名	
型式	
台数	
使用室名	
使用開始年月日	年 月 日

## 2 診療用高エネルギー放射線発生装置の定格出力

定格出力	電子線	MeV
	エックス線	MV

## 3 診療用高エネルギー放射線発生装置及び診療用高エネルギー放射線発生装置使用室の放射線障害の防止に関する構造設備及び予防措置の概要

## (1) 診療用高エネルギー放射線発生装置の放射線障害の防止に関する構造設備及び予防措置の概要

発生管容器の漏えい放射線 (利用線すいの放射線量の1/1000)	以下 ・ 超える
照射終了直後の不要放射線からの防護措置	有 ・ 無
放射線発生時の自動表示装置	有 ・ 無
インターロック装置	有 ・ 無

## (2) 診療用高エネルギー放射線発生装置使用室の放射線障害の防止に関する構造設備の概要

使用の場所			
建築物の構造		耐火構造 ・ 不燃材料	
使用室の防護物の概要	しゃへい物 しゃへい物を設ける場所	構造、材料、厚さ	
	天井		
	床		
	周囲の画壁等	(東)	
		(西)	
		(南)	
		(北)	
	出入口の扉		
	操作室		有 ・ 無 ( )
監視用モニター等		有 ・ 無	
エックス線装置の併設		有 ・ 無	
移動型の場合の保管場所			
使用室の標識		有 ・ 無	

## (3) 診療用高エネルギー放射線発生装置使用室の放射線障害の防止に関する予防措置の概要

放射線障害の防止に必要な注意事項の掲示		有	・	無
出入口の放射線発生時の自動表示装置		有	・	無
画壁等外側の実効線量が1ミリシーベルト／週以下となる措置		有	・	無
管理区域	管理区域を設ける場所	別添図面のとおりに		
	境界における実効線量が1.3ミリシーベルト／3月以下となる措置	有	・	無
	立入制限措置	有	・	無
	標識	有	・	無
敷地の境界等	敷地内居住区域及び境界における実効線量が250マイクロシーベルト／3月以下となる措置	有	・	無
その他	取扱者の被ばく測定器	有	・	無

## 4 診療用高エネルギー放射線発生装置を使用する獣医師の氏名及び放射線診療に関する経歴

氏名	放射線診療に関する経歴（従事年数、研修受講状況等）

## 5 放射性同位元素による放射線障害の防止に関する法律第9条第2項第1号の許可の年月日及び許可の番号並びに同法第34条第1項の規定により選任された放射線取扱主任者の氏名

使用許可年月日	年 月 日	使用許可番号	
放射線取扱主任者氏名			

## 【注意事項】

- 放射線同位元素等による放射線障害の防止に関する法律（昭和32年法律第176号）に基づく使用許可を取得した申請書の写しを1部添付すること。
- 隣接室名、上階及び下階の室名並びに周囲の状況を明記した診療用高エネルギー放射線発生装置使用室の平面図及び側面図を添付すること。
- 使用室の平面図及び側面図は、照射方向、発生管の中心から天井、床及び周囲の画壁の外側までの距離（メートル）並びに防護物の材料及び厚さを記入した縮図とすること。
- 管理区域の標識等の位置を使用室の平面図及び側面図中に記入すること。
- 放射線診療に関する経歴欄には、獣医師が放射線診療に携わった場所、従事期間及び研修受講状況等を記入すること。